

book

最近、おもしろかった本

『インハウスローヤーの時代』

インハウスローヤーズネットワーク 編 日本評論社 1785 円 (税込)

弁護士業域の将来的な拡がりを実感

ここ数年来、東京三弁護士会におけるインハウスローヤーの存在感は急速に高まっており、この書籍も満を持して登場した感がある。インハウスローヤーによって書かれた、インハウスローヤーに関する日本で初めての書籍である。

本書は大きく分けて3つのパートから構成されている。

まず、インハウスローヤーについての歴史や沿革、日本におけるインハウスローヤーの現状などをデータで紹介しながらまとめた総論部分。これによれば、現在、日本の弁護士資格を持つインハウスローヤーは160人ほどで、そのうち120人ほどが企業に、40人ほどが金融庁などの行政庁に勤務しているようだ。また、修習期別の人数分布データによると、50期以降の増加傾向が著しい。こうしたデータはこれまで日弁連でもきちんとまとめたことはなく、大変貴重である。

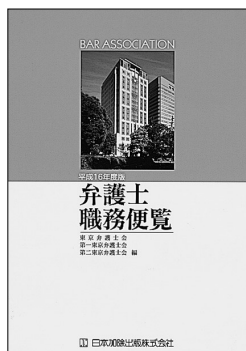
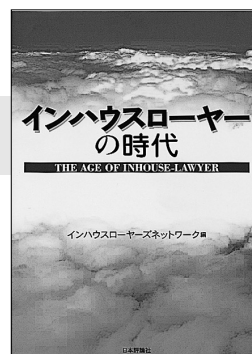
続いて、本書の主要部分である8人のインハウスローヤーたちによるそれぞれの業務の詳しい紹介に入る。総合電気メーカー、テレビ局、総合商社、投資銀行、IT関連企業、生命保険、ゼネコン、地方精密機器メーカー、それぞれの業界

の特徴を踏まえた業務の詳細な説明がなされており、これも貴重なデータといえる。テレビ番組の制作過程や投資銀行のビジネススキームなど各業務の背景となる事情もていねいに書かれている。執筆者それぞれの個性もよく出ており、インハウスローヤーの仕事ぶりが実に各社各様、各人各様であることがわかる。

最後に、インハウスローヤーを採用する大手企業の役員、インハウスローヤーを育成する法科大学院の副学長、インハウスローヤーを商品として取り扱う弁護士専門のヘッドハンターがそれぞれの立場からインハウスローヤーの未来について語っている。この3人の執筆部分が本書に複眼的視点を与えている。

本書は大規模書店や弁護士会館地下の書店にも置かれている。弁護士の業務改革が叫ばれる昨今だが、ビジネスの最先端で活躍するインハウスローヤーの実態を知り、弁護士の業域の将来的な拡がりを実感することのできる1冊である。

(会員 竹内 朗)



東弁のほん —新刊のご案内—

法律事務所
必携！

『弁護士職務便覧 平成16年度版』

東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会 編 日本加除出版 2205 円 (税込)

人事訴訟法・仲裁法など新法の制定や担保執行法制の改正に伴う申立手数料の大幅な変更を完全にフォロー。本年度版から東京管内以外の裁判所・検察庁の所在地掲載。

注文は同封の会員特別価格申込書で！

■問い合わせ先：司法調査課 TEL.03-3581-2207

『たそがれ清兵衛』 2002年／日本／山田洋次監督作品 品格ある映像で描く下級武士の暮らし

「男はつらいよ」シリーズの、山田洋次監督初めての時代劇である。わが国の映画賞を総なめにすると共に、アカデミー賞の外国語映画賞にもノミネートされた名作であるが、いわゆる大作タイプではなく佳作タイプの映画であるので、気軽に見ていただけるかと思う。

幕末の東北地方の小藩の貧しい下級武士、井口清兵衛（真田広之）が主人公であるが、清兵衛は妻に先立たれ、残されたふたりの幼い娘とボケかけた老母をかかえた生活を送っている。僅かな禄高の上、妻の闘病や葬式の際の借金で、生活は苦しい。このため清兵衛は身なりに構うゆとりもなく、内職、畑仕事に追われる毎日だ。そのため城中の仕事が終われば同僚の酒の誘いも断って、そそくさと帰宅するのが常であり、そんな清兵衛を同僚たちはからかい半分に「たそがれ清兵衛」と呼んでいる。

山田監督は綿密な時代考証を行なって、当時の下級武士の



『たそがれ清兵衛』
販売元：松竹(株)ビデオ事業室
税込価格：¥3,990 (ビデオ)

暮らしをリアルに再現することに成功している。徹底してディテールにこだわった品格のある美しい映像により、貧しいが暖かい生活がほのぼのと描かれている。

そんな清兵衛に突然やってくる幼なじみの朋絵との再会。酒乱の夫と離縁したばかりの朋絵との間で生まれる淡い恋心。朋絵を宮沢りえが演じているが、慎ましきのなかにも華があり、貧しい家の中が急に陽が射したように明るくなっていく。

しかし、そんな清兵衛の身に不条理が降りかかり、清兵衛は藩の権力争いに敗れた側の剣の達人を討つよう命ぜられてしまうのであるが、このクライマックスの決闘シーンが、また実によくできており、迫力がある。

この映画は青春もの、純愛もの、家族愛の物語、さらには活劇、サスペンスといろんな要素を持っているが、見終わったらあなたは、きっとじんわりとした感動に包まれていることだろう。
(会員 高田 弘明)